

令和4年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 最優秀賞  
(国土交通大臣賞)

「もしもの時のために」

宮城県 栗原市立一迫小学校 6年 <sup>さきの</sup>崎野 <sup>かんた</sup>寛太

「寛太君、子どもの人数を数えて報告してください。」

これは、6月12日に行われた、地区の防災避難訓練で地区会長さんからかけられた言葉です。私の家族は、毎年この地区防災避難訓練に参加しています。小さい時から参加している私は、正直、「また同じことをするのか。」と面倒くさい気持ちでいっぱいでした。ましてや、その日はあいにくの雨で、避難場所に着く頃には足元がぬれてしまっていました。しかし、面倒くさがっていた私は、そう思ったこと自分を恥ずべきことだと思いました。なぜなら、自分の目の前には、歩くことが大変そうな年配の方や杖をついている方、そしてラブラドル犬のさくらちゃんまでもが一生懸命に避難してきていたからでした。そこで、集まった顔ぶれを見ると、若い方があまりいないことに気がきました。(もし、土砂災害や自然災害が起きたら、本当にみんな動くことができるのだろうか。)と一気に不安が私に押し寄せてきました。その時、地区会長さんが「私たちの地区には、県の土砂災害警戒区域に指定されている場所があります。地震だけでなく、土砂災害にもしっかりと備えなくてはいけないのです。避難訓練は、もしもの時のために、みんなで日頃から顔を合わせ、お互いの近況を報告し合うことも必要なのです。そして、まだ大丈夫と思わず、いざという時には早めに避難することが大切です。空振りになることが良いことですから。」とお話されたのでした。それを聞いた私は、「もしもの時のためにと空振りが良い」という言葉が頭から離れませんでした。そして、小学生の私でも、何かあったら動ける一人として、役に立てるかもしれないという気持ちになりました。訓練に参加したことによって、地域には大勢のお年寄りや助けを必要としている方がいるという現状を理解することができたのでした。

その避難訓練を機に、私の家の裏山が、土砂災害警戒区域に指定されていることを今まで以上に意識するようになりました。今年の夏だけでも、多くの場所で、短時間大雨情報や線状降水帯の発生などのニュースが何度も聞かれ、家の前の迫川の水位はどうだろうか、山は大丈夫だろうかと心配になりました。夏休み直前の7月15日には、大崎市の名蓋川が決壊して、住民の方がレスキュー隊の方に救助される映像が何度も映し出され、人ごとではないような災害に思えました。

私の家の前の川は、数年前に河川の護岸工事が行われました。近年の度重なる大雨で、毎年大雨のたびに河道側ののり面が削られ、流れが寄ってきていたからです。今は、その工事のおかげで、大雨になっても以前より流れが緩やかになり、心配が軽減されました。このように私たちの生活を守ってくれる方がいるのだということが分かり、自分でも土砂災害や自然災害について、もっと調べてみようと思いました。

母に相談したところ、首相官邸ホームページというサイトにもものっていることを教わり、早速調べてみました。その中には、土砂災害から身を守る3つのポイントや土砂災害の種類や主な前兆現象などについても書かれていました。特に私が驚いたことの中に、土砂災害の発生件数が、ここ10年では、平均して1年間に1,450件も発生しているということです。その数は、平成14年から私が生まれた平成23年までの10年平均のおよそ1.3倍になっているということでした。この事実は、いつでも身近に起こる可能性があるということを、私に改めて突きつけたのでした。

生まれたときから山川と共存している私だからこそ、もしもの時に、正しい判断で空振りでもいいから行動ができる人になりたいです。